

## シャコガイ類養殖試験

城 間 - 仁

### 1. 目的

近年、県内各地でヒレジャコのケージ式養殖が実施されている。久米島でも、昨年、養殖試験を実施したが、養殖海域が雨の後には赤土で汚れる等で種苗が小さいうちに大量斃死し、うまくいかなかった。そこで今回は、配布されたシャコガイ種苗を陸上で中間育成することによって歩留まりをあげることを目的とし、当該地域で養殖が可能であるかどうかを検討する。

### 2. 材料及び方法

水産試験場八重山支場で生産されたヒレジャコ種苗2000尾（平成14年7月18日収容）とヒレナシジャコ種苗5000尾（平成14年10月25日収容）を漁協セリ市場横のコンテナ水槽に移し、1日2回程度の換水、通気にて3cm程度まで陸上で中間育成し、養殖試験海域のケージ（1m×1m）に収容する。養殖の管理は漁協青壮年部の仲与志勇氏と喜久里健一氏にお願いした。

### 3. 結果

平成14年7月18日に収容したヒレジャコ種苗は、11月までの約4ヶ月間、1日最低1回の換水と通気で中間育成を試みたが、斃死はほとんどないものの、ほとんど成長が見られなかった。その間に、平成14年10月25日に収容したヒレナシジャコ種苗が1週間も経たないうちに全滅。前日に降った大雨とコンテナ水槽での閉鎖的な飼育だったため、水質の悪化が主な原因と思われる。ヒレジャコ種苗の方に斃死は見られなかったが、成長もあまり見られず、ヒレナシジャコのように全滅しないとも限らなかったため、ケージへ収容した。その後、ケージでの養殖を続けたが、やはり斃死が続き、現在11尾が生

残しているのみである。殻長は、最大で8cm、最小で4cm弱であった。

### 4. 考察

今回の試験は、中間育成により大きくした種苗を使って当該養殖海域での養殖が可能であるかを図ることを目的としていたが、陸上での換水式の間中育成は、成長も悪く、全滅の危険性も高いことから別の方法を考慮した方がよいと思われる。

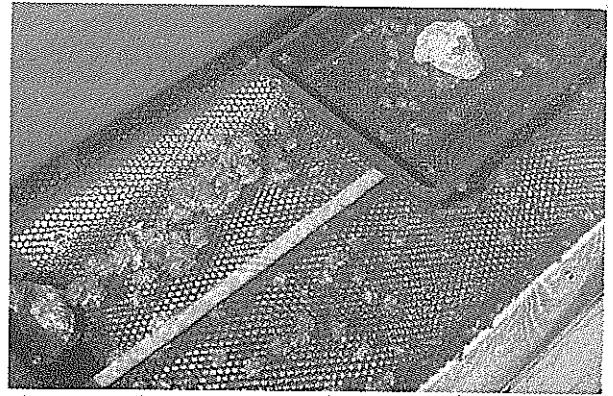
現在、久米島には陸上で中間育成できるような施設はないが、真泊港の船着き場を使用していない生け簀があり、それを使用する方法や、漁港内の占有許可による中間育成などの方法が考えられる。また、ケージに移してからの養殖方法にもまだ不十分な点が見られた。ケージの蓋の目合いが10cmと大きく魚による食害の可能性が高いことや、ケージに敷きつめた石も大きく、埋もれてしまった種苗もいたと思われる。今後、これらの問題を1つずつクリアしていき、歩留まりの向上に努める必要があると思われる。



水試八重山支場より導入したヒレジャコ種苗



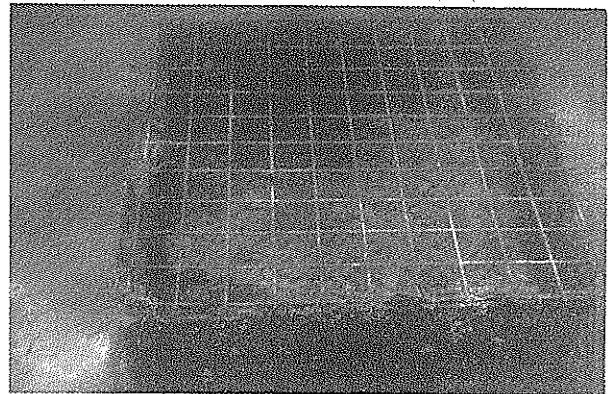
約10~30mmのヒレジャコ種苗



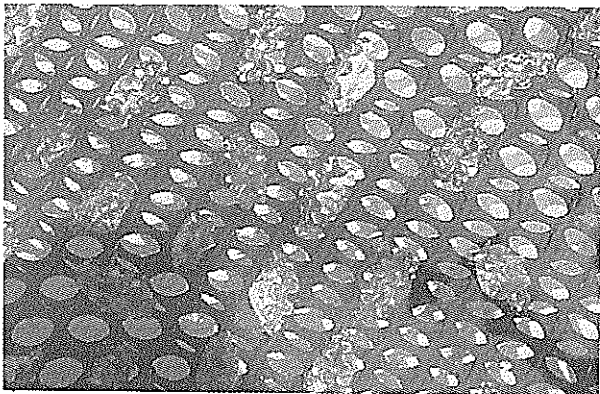
陸上コンテナ水槽にて中間育成中のヒレジャコ種苗



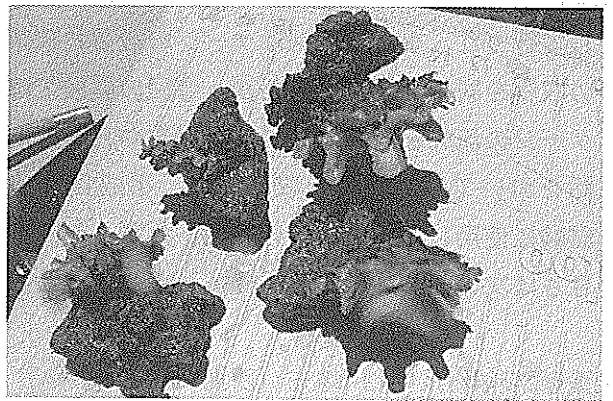
ヒレジャコ種苗を陸上のコンテナ水槽へ並べる



ケージで養殖中のヒレジャコ



8mm目合いのネットロネットに並べられたヒレジャコ種苗



約4~8cmに成長したヒレジャコ